

現在の景気：県内景気は、緩やかな持ち直し傾向が続いている。非製造業では、経済活動正常化の下で、観光や飲食などの対面型サービス業の回復が続いているほか、自動車や百貨店の衣料などの販売も改善している。製造業では、海外需要の鈍さなどから生産活動が足踏みとなっている。この間、建設需要は、交通インフラ整備や物流施設などの官民プロジェクトの進展などを背景に総じて底堅く推移しているが、建設コスト上昇等から住宅着工の一部に弱さがみられる。

3 か月程度の見通し：非製造業は、物価高の影響を受けつつも、経済活動正常化の下で、対面型サービス業を中心に持ち直しの動きが続くとみられる。製造業では、海外需要の鈍さの影響が続くとみられる。

個人消費：①上向き。②5 月の県内百貨店（存続店ベース）の売上は、前年同月比 2.5%増と 5 か月連続で前年を上回った（19 年同月比では 7.2%減）。気温の上昇や外出機会の増加などから、夏物商材が好調だった。6 月入り後は中元商戦が堅調だった模様。5 月の自動車登録台数は、部品調達難の緩和などから、同 15.0%増と 9 か月連続でプラスとなった（19 年比では 26.9%減）。一般乗用車（前年同月比 18.7%増）、軽乗用車（同 11.5%増）ともに増加した。

住宅建築：①鈍化。②5 月の新設住宅着工戸数は前年同月比 42.8%増加し、2 か月ぶりに前年を上回った。分譲住宅（同 57.9%増）、貸家（同 55.0%増）、持家（同 2.2%増）いずれも増加した。

設備投資：①堅調。②国土交通省の「建設着工統計」（非居住用）によると、5 月の工事床面積は前年同月比 8.1%減少したものの、工事予定額は同 37.4%増加した。千葉経済センターによる県内企業 182 社アンケート調査（4 月実施）では、23 年度の期初計画は、22 年度実績額の 2.5 倍となっている。

公共工事：①増加基調。②5 月の県内公共工事請負額（年度初来累計）は、前年同月比 3.5%増加した。独立行政法人（同 33.0%減）は減少したものの、県（同 24.6%増）、国（同 21.7%増）、市区町村（同 3.2%増）が増加した。

輸出：①鈍化。②5 月の成田、千葉、木更津 3 港合計通関輸出額は、前年同月比 9.5%減と 3 か月連続で減少した（19 年比では 58.7%増）。成田空港は、半導体等製造装置（同 40.7%減）や IC（同 14.2%減）、科学光学機器（同 7.8%減）など主要品目が軒並み減少したことから、同 8.8%減と 3 か月連続で前年を下回った。千葉港は、有機化合物（同 28.4%減）や鉄鋼（同 13.9%減）などの減少により、同 34.0%減と 2 か月連続で前年を下回った。木更津港は、自動車（同 79.6%増）や鉄鋼（同 8.4%増）などの増加により、同 18.9%増と 4 か月連続で増加した。

生産活動：①一進一退。②4 月の県鉱工業生産指数（季調済）は、89.2（前月比 1.0%上昇）と 2 か月ぶりに上昇した。食料品工業（同 1.1%低下）が低下したものの、主力の化学工業（同 4.5%上昇）、鉄鋼業（同 3.0%上昇）が上昇した。

観光：①回復。②県内の観光・宿泊施設の入込は、新型コロナウイルスによる影響が薄れ、国内個人客を中心に回復が明確化している。県南の宿泊施設では、夏季ハイシーズンの予約が好調な模様。

雇用情勢：①改善。②4 月の有効求人倍率（季調値）は、昨年から改善傾向をたどった後、1.03 倍と前月比 0.03 ポイント低下した。有効求人数（同 2.4%減）が減少した一方、有効求職者数（同 0.3%増）が増加した。

【トピックス】

- 三井不動産と空気圧機器大手の SMC は、柏市若柴に研究開発の中核拠点「柏の葉キャンパス新技術センター（仮称）」を 2025 年に開設することを発表した（13 日）。総投資額 1,200 億円を見込む新技術センターは、それぞれ 5 階建ての A～C 棟の 3 棟で構成され、延床面積は 85,320 m²を予定している。
- 千葉県誕生から 150 年を迎える 6 月 15 日を前に、記念行事のオープニングイベントとして「森のホール」（松戸市）で記念式典が開催されたほか、「南総文化ホール」（館山市）でのコンサートや「いいおかユートピアセンター」（旭市）でのアートワークショップなど各地でイベントが開催され、大勢の人で賑わった（いずれも 11 日）。記念日当日には、「青葉の森公園芸術文化ホール」（千葉市）で節目を祝う能の公演「記念祝賀 羽衣」が披露された。7 月以降もコンサートやスタンプラリー、お祭りなど、多様な記念行事が予定されている。